



一夏会報



鶴見大学学長
柳澤 慧二

アナログ的 ブラウザー機能

司書・司書補講習受講生の皆さん、暑い夏の間、ご苦労様でした。見事に目的の資格を手に入れた方々は、達成感を味わっておられることでしょう。この会報の題である「一夏」とは、仏教で用いられている言葉で、陰暦4月16日から7月15日までの90日間をさします。この期間、僧は道場にこもって修行をした(安居)ことから、「夏安居」ともいいます。皆さんの夏期講習はまさに夏で、昭和38年に「一夏会報」が発足し、この会報が誕生しました。

デジタル化が進んで図書館の役割が少しずつ変わってきていると感じられます。アメリカにおいて、デジタル化によって図書館の機能がソフトの面ばかりでなくて、ハードの面でも大きく変わっていくというケンタッキー大学のグレイター副館長の講演は大変印象的でした。中でも、図書館がハードとしてさらにサロニ化していくというお話は、今迄私は全く考えていなかった視点であるだけに、大変刺激的です。14〜29歳のミレニアム世代に対して、図書館ばかりでなく、大学教育全体がもつと変わっていくだろうと、お話を聞きながら考えました。デジタル・ネイティブに、デジタル・イミグレーションはこれからはますます世代交代を迫られるだろうと感じられます。それはそうであるとしても、図書館の主役はやはり本であるというの間違いのない事実です。デジタル情報で必要な情報が容易に得られるようになり、その整理も簡単になってきていることは確かです。しかし、私がこの文を書いているような夏の暑い日なかに、集中して文を考えることに行きづまったとき、眼をあたりに転じますと、身のまわりに何十冊もの本が存在しています。これらの本は、きわめて雑多なものですが、それぞれに何らかの思いが伴っていて、実際に手にしなくても、著者や、入手のいきさつや、内容や、あるいはこれから読まなければならない気持ちなどが、次々と起ってきます。私は印刷された本のこのような機能は、デジタル情報化が進んでも、なかなか置き換えられないのではないかと思えます。つまり、アナログ的なブラウザー機能とでもいう働きによって、目的外のものも見るといふ機能は、人間の頭に残された大切な役割です。このような情報を増加させるために図書館や書店の書架をながめながら、気になる本を手にとるといふ作業は、コンピューターに代ることが出来ない領域であり、そのために図書館の役割は、これからも印刷された書物を集め、並べておくことが重要なのではないかと思えます。ちなみに、browse という英語には、あちこちの向くままに雑誌や本を拾い読みするとか、商品をひやかして歩くという意味があります。ほとんどの大学において教養部が廃止され、専門教育をすれば良いという流れが加速したことは、平成3年の大学設置基準の大綱化が大きなきっかけでした。この改革の大きなねらいは専門教育の充実であって、教養教育の軽視ではありません。しかし、同時に行われた初等、中等教育におけるゆとり教育の導入もあって、専門教育に時間も人手も必要になり、専門以外のことは知らない大学生がふえています。この流れの中で教養を身につける手段として、読書はますます重要になるでしょう。本をえらぶときに、目的を持って探すことも必要ですが、横道にそれることも必要ではないでしょうか。そのためにいろいろなメニューを提供するのが図書館の大切な機能として残っていてほしいと願っています。



主任教授
岡田 靖

図書館員に必要な資質は？

今年の夏は特に暑さが厳しく、講習生の皆さんばかりではなく我々講師陣にも厳しいものでした。それにもかかわらず、途中でリタイアした方が例年に比べて少なかったと聞いています。それは取りも直さず、皆さんがこの様な厳しい条件にもかかわらず頑張られた証といえます。但し、資格を得たことによつてすべてが終わったわけではありません。資格を得たことにより司書又は司書補としてのスタート地点に立ったということになります。

これからも日々の研鑽が必要です。特に図書館

の世界は変化の激しい分野です。げんに今年の6月には図書館法が改正され、大学における図書館に関する科目についても省令で定めるといふ改正が行われております。今までは司書講習に準じていた科目と単位でしたが、大学独自の科目と単位が定められます。それについて現在、どの様な科目と単位にするかの検討がなされていきます。いろいろな意見が出され、単位数も科目数も大きく変わる可能性があります。この変化は、司書講習や、既に資格を取得された方には無関係のように見えますが、実はそう

ではありません。何故その様な変更をするかといえば、現在の教育課程では不十分であるために改正がなされるわけです。更に、これは大学の司書課程だけの問題ではなく、いずれ司書講習の科目や単位に大きな影響を与えるに違いありません。これらの改正に沿った新しい科目についても学習する必要があらます。またこの様な法律の改正だけではなく、現場でいろいろな新しい技術や理論が生じてきます。それらに対応するための勉強も必要です。

実際に平成8年の講習科目と単位の改正時に

は、情報関係(いわゆるコンピュータ関係)の授業が増えました。それは、以前に資格を取られた方でも、コンピュータに関する知識と技術が現場で必要とされてきたということを意味します。そこで本学の講習でも、コンピュータの補習授業を10コマほど、参加は自主的であるにしても、設けました。今回の講習でも、

開講式の際には私がかかり強く参加についてお願いをしました。さらに図書館員にとってはコンピュータを駆使できなければだめであると、かなり強調しました。図書館の世界では、コンピュータに関する知識と技術は他の分野に比べてその重要度はかなり高いと言えます。現実にはコンピュータ関係の勉強会等が多く開催されています。どうしてもこのご時世、コンピュータに目がいつてしまいがちです。しかし、図書館員にとってはコンピュータに関する知識と技術だけが全てではありません。本当に図書館員

に必要なのは、私が授業(司書の方は資料組織の概説、司書補の方は資料の整理)の中でお話ししたことです。

それは自分の判断基準をキチンと持つということです。よく情報過多、情報の氾濫などといわれています。これは現代の問題のように思われがちですが、実はいつの時代でも、言葉こそ違え、情報過多、情報の氾濫はあったのです。それは自分の判断基準をキチンと持つていないと過多になりたり氾濫したりするので、自分の判断基準が曖昧であれば、他人の判断が気になり、自分の判断が周りに左右されてしまいます。周りのことが気になつて自分なりの判断ができなくなる。服装でもそうですが、周りの人と違う服装をしているとなにか落ち着かない。それが流行に振り回されている証拠です。そうではなく、自分は自分としての判断基準を持つて対処していかねばなりません。判断基準がキチン

としていけば情報過多、情報の氾濫等ということはおきません。自分の判断基準さえキチンとしていけば、かえつて選択肢は多ければ多いほどよいはずで、今の時代だけが情報過多、情報の氾濫を招いているわけではありません。そして、何時の時代でも図書館には様々な情報と成るであろうものが飛び込んできます。それらを、本当に利用者役に立つものとなるか否かを判断する基準をキチンと持つことは何時の時代でも図書館員に求められている資質といえます。これは授業などで得られるものではありません。日常の生活の中で常に意識していかねば養うことはできません。皆さんも資格を得たことで満足なさらないうで、ご自分の判断基準の確立を目指していただきたいと思つております。



相模女子大学教授
渋谷 嘉彦

読書週間について

この原稿を書いているのは八月の下旬で、講習生のみなさんは演習科目に取り組んでいる頃ですね。そしてこの拙文が掲載される『一夏会報』の発行日が十一月一日、丁度読書週間の最中ということになります。そこで読書週間について少し学習することにしませう。

読書週間は、社団法人読書推進運動協議会（以下読進協と呼びます。）が主催して、毎年十一月三日の文化の日を中心にした十月二十七日から十一月九日の二週間行われています。読進協は、日本書籍出版協会、日本雑誌

協会、教科書協会、日本出版取次協会、日本書店商業組合連合会、日本図書館協会及び全国学校図書館協議会という、出版物の生産、流通、利用に関係する七団体を主要構成団体として、昭和三四年十一月に発足しました。読書週間の歴史については、読進協のホームページ（<http://www.dokusyo.or.jp/>）を参照してください。今年の読書週間は第六二回で、「おもわぬ出会いがありました。」が標語として決まっています。応募総数二二六四点のなかから選ばれたということですが、受賞者のことばに

よれば、本との「出会い」を大切にしたいという思いが込められているようです。毎年の標語を見るのも楽しいですよ。読書週間に関連して、毎日新聞社が毎年実施している「読書世論調査」と「学校読書調査」についても注目しましょう。それぞれ今年で第六二回、第五四回と回数を重ね、貴重なデータが集積しています。毎年読書週間に合わせて調査結果の概要が紙上で報告され、翌春に詳細な報告書が刊行されます。また、読書週間の初日の十月二十七日は「文字・活字文化の日」でもあります。超党派の

国会議員で組織された「活字文化議員連盟」から提出され平成十七年七月二十九日に公布・施行された「文字・活字文化振興法」の第十一条に「国民の間に広く文字・活字文化についての関心と理解を深めるようにするため、文字・活字文化の日を設ける。」とあり、同条第二項でこの日を十月二十七日とすることが規定されています。

さて、ついでにも一つの読書週間についても見ておきましょう。それは「こどもの読書週間」です。これも読進協が主催しており、四月二三日から五月十二日までの約三週間を言います。今年には第五〇回で、「こんにちは、新しい本。」が標語でした。元々は五月一日から十四日までの二週間だったのですが、国会で二〇〇〇（平成十二）年を「こども読書年」とする旨の決議なされたのを機に現在のように変更になりました。「こども読書年」の趣旨は、読書の持つ計り知れない価値

を認識して、子どもの読書活動を国を挙げて支援するというものでした。子どもの「読書離れ」に対する危機感から翌年の十二月には、こちらも超党派の「子どもの未来を考える議員連盟」から提出された「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行され、この法律のなかで四月二三日を「子ども読書の日」とすることが定められました。

四月二三日は、「世界の本の日」でもあります。一九九五（平成七）年十一月パリで開催されたユネスコ総会は、この日を「World Book and Copyright Day」とする宣言文を採択しました。直訳すれば「世界・本と著作権の日」となりますね。この宣言文のなかで、「ミゲル・デ・セルヴァンテス、ウィリアム・シェイクスピア、及びインカ・ガルシラス・デ・ラ・ヴェガが一六一六年のその日に没したことから」と選定の理由を述べています。世界的に著名な三人の著作

家が同じ年の同じ日に亡くなっているのですね。またこの日は、「サン・ジョルディの日」として知られています。スペイン・カタルーニャ地方のサン・ジョルディ伝説に由来するもので、男性は女性に花を、女性は男性に本を贈る習慣があるのだそうです。日本でも日本書店商業組合連合会が二三年前からPR活動をしています。残念ながら「バレンタインデー」ほどのブームにはなっていないですね。サン・ジョルディ伝説については、関西カタルーニャセンター（スペイン・カタルーニャ州政府議会により承認された公式センターだそうです。）のホームページ（<http://home.att.ne.jp/banana/ckk>）を参照してください。

関心を持った方は、レファレンス質問を処理するつもりで、さらに調べてみてください。

受講生
司書



夏と司書講習と私
田中 晴子

司書講習に通い始めて最初に感じたことは、勉強って楽しいものだなーということでした。私の場合、学生時代に比べたら格段に勉強に対するモチベーションが高く、また、社会経験も少々ながら経てきたことで物事の見方も変わったことが影響しているのだと思います。図書館は生涯学習を支える施設でもあると習いましたが、充実した生涯学習が人生を充実させるということをもっと体験した気がしています。私は図書館勤務経験・予備知識ともにゼロの状態での講習に臨んだので、知識欲を満たす欲びはひとしおだったかもしれません。

先生が高感度のアンテナをお持ちで、フットワークも軽く図書館内外のことを好奇心旺盛に見渡していらつしやることに刺激を受けました。何の職種においてもこのような姿勢がプラスになることは間違いありませんが、広い知識と柔軟性は図書館員には必須の資質でしょう。また、諸先生方のお話を伺って、世界中を旅してまわりたい衝動に駆られました。まだかなり駆られていきます。

私も司書志望者の典型に漏れることなく人見知りですが、幸い友人がでるのですが、このことは二ヶ月間の大きな支えとなりました。情報交換のみならず、授業の合間のたわいなおしゃべりは私にとって重要なものでした。旅は道連れ、です。受講生の方々との会話

も勉強も楽しく、うきうきと毎日通っています。日本が、学ぶにつれ、日本の図書館がまだまだ発展途上にあることや、司書の社会的地位の低さを思い知ることにもなりました。それまでただの読書好きの女だった私には驚きの事実でした。近くの図書館を利用してはいるだけの生活ではわからなかったことです。この国の貧しい一面を知って、今は自分にできることから始めたいと考えています。

今年の夏はとても良い夏でした。この司書講習で関わることで、きた皆様に感謝致しました。ありがとうございます。またお会いすることもあるかと思えます。これからもよろしくお願い致します。

受講生
司書



スパイになりたかった
図書館員
小林 直貴

これは今夏を講習で過ごした私の個人的感想、伝言です。講義中の話で、情報を専攻するとスパイの研究があったと聞きました。コンピュータが少ない頃の逸話だったので、私の受け取り方は全く別だったので。図書館は情報機関の一つではないかと思っていたからでした。

今回の講習において、レファレンスで情報の確認をする、情報検索で信頼できる情報源を見分ける、分類・目録・レファレンスにおける形式を守ること等は両者に通じると思えました。また情報先進国である欧米は、図書館も先進国であることが良くわかりました。しかし情報を軽

視して戦争に負けたどころかの国では、いまだに情報と図書館の重要性が理解されていないと思うのです。私は今回の講習を聞き、図書館で得られる情報の重要性を理解してもらうことが大切であり、その結果専門職の必要性もわかってもらえるのでは、と考えました。講師の先生方へ。変な受講生で先生方を困らせていたと思います。ご教授ありがとうございます。一緒に受講していた皆さんへ。もう少し話をしたかった方、最後に挨拶できなかった方が出てしまいました。残念でなりません。私は東京、横浜の書店によく現れます。見掛けたならば声をかけて下さい。これから図書館員を目指す方へ。図書館は楽な仕事ではありません。空調がない所の作業、書架で重い本を運ぶ事もあります。夏の炎天下、冬の極寒時期に移動図書館に乗る人もいます。その辺りも考えて仕事を選ぶことをおすすめします。また元福祉の相談員として一言、金融・経済が大変な時ですが、就職には生活できる収入を得ることが大切だと思います。

事務局、大学図書館、施設管理の方々へ。お世話になりました。皆さんと挨拶することで癒されました。最後に職場関係者へ。御協力心より御礼申し上げます。

受講生

司書補



共に過ごした時間

中村 美奈

二〇〇八年、暑く充実した夏が終わりました。長いと思っていた二ヶ月は、試験やレポートに追われているうちに、めまぐるしく過ぎてゆきました。

司書補講習を受けたい！と一大決心して願書を送り、合格通知を手にしたものの、受講前は二ヶ月間勉強についていかれるだろうか、それ以前にちゃんと通えるのだろうか、という不安がありました。体調を崩しやす

い夏に、毎日片道二時間以上かけて通うと考えただけで挫折しそう……と思っていたところ、本年度から学生寮を利用できることを知り、入寮を決めました。

現役の学生に交じって初めての寮生活。うまく馴染めるかな、とちよつとドキドキでしたが、同じ志を持つ司書講習生た

ちとすぐに打ち解け、心強い仲間となりました。みんなで一緒に通学したり、食事しながら雑談をする時間はとても楽しく、勉強が予想以上に大変でくじけそうになった時も、寮の友人の存在が支えになりました。

講習内容は、図書館員ではない私にとつて初めて知ることばかりで、毎日が新鮮でした。時間も余裕もなく、手が痛くなるくらい必死にノートをとる日々。こんなに勉強したことは、学生時代にもありませんでした。個性豊かな先生方の授業はそれぞれに印象深く、心に残っています。ただ知識を詰め込むだけの講義ではなく、現場での体験談・裏話など貴重なお話をたくさん聞かせていただき、ますます図書館への興味が強くなりました。

特に大学図書館で行った実践的なレファレンスサービス演習、児童本の読み聞かせは、苦労したぶん達成感が大きく、良い思い出です。今後、図書館で働く機会に恵まれたら、今回学んだ知識を生かし、さらに向上できるように尽力したいと思います。

寮の仲間や同じ教室で学んだ受講生の方々に励まされ、一日も欠席することなく無事に全日程を終了できました。皆さんと共に過ごした時間は私の財産です。最後に、熱心に指導してくださった先生方、快適な受講環境に気を配ってくださった事務の方々、寮生活を支えてくださった職員の皆様、心から感謝申し上げます。

申請上げます。

受講生

司書補



「明るい笑顔」は

忘れずに

中山 晶子

もうすぐ暑い夏が終わり、そして私の司書補講習は終わろうとしています。

学校と公共図書館でボランティアとして関わっていた私は、わからないことが多く「もっと図書館のことが知りたい」と、この講習を受講しました。緊張の中、いざ授業が始まると、自分がすっかり勉強の仕方を忘れて

いること、ノートの取り方さえもわからなくなっていることに気がつき愕然としました。長い主婦生活の中で子どもに「勉強しなさい」と言うのは簡単でしたが、勉強の大きさばかりわかりました。

授業内容では、今の図書館の電子化の現状、OPACの存在、雑誌検索、書誌の記述と、次々と知らない話が続く、初日か

ら英単語が飛び出してきたときには「これは大変なことになったぞ」と気持ちを引き締めました。著作権についての授業では、初めて聞く専門用語を必死で書きとめ覚える日々、レファレンスの演習では、鶴見大学図書館の蔵書の数に圧倒されながら書架の間を歩き、目が回りながら課題をこなしました。

先生方の個性豊かな人柄、図書館に対しての熱い情熱をもって、自らの知識を私たちに伝えたいという気持ちにあふれた授業に感激し、それに答えようとがんばる毎日の中で、家では「お母さん、難しいことやってるね」と感心されてうれしかったり、お弁当を食べながらのおしゃべりなど皆さんの体験ができました。

た。ここで学んだことを、図書館で、またその先にある多くの未来へと役立てることが私の希望です。

最後に、事務局の皆様をはじめ、毎朝、会館の入り口で元気に声をかけてくださった皆様、ありがとうございました。「図書館員は明るい笑顔と体力」を忘れないでがんばります。

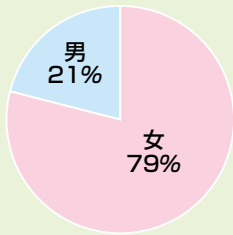


アンケート

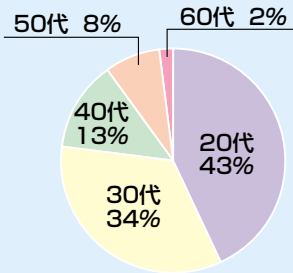
◆平成20年度司書講習アンケート集計結果◆

(回答数/受講数=143名/152名)

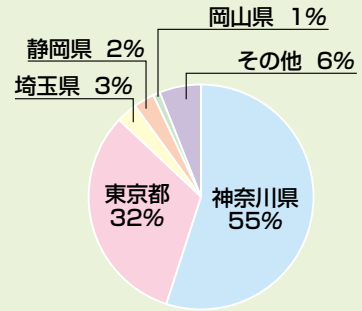
男女別データ



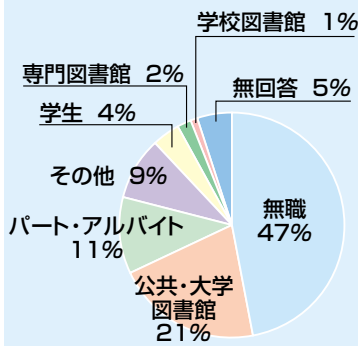
年齢別データ



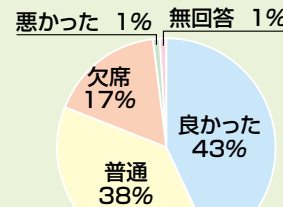
出身県別データ



職業別データ



特別講演会について



●主な理由

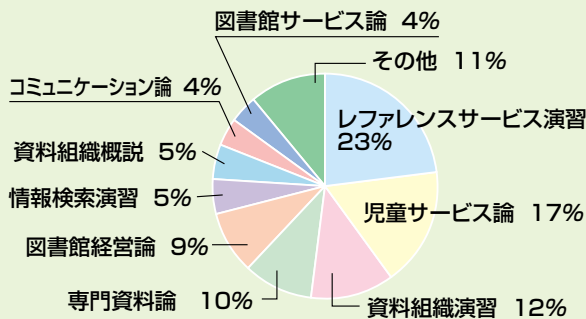
- ・良かった・・・海外の図書館員の方のお話を聞くことが出来たので、貴重な経験でした。アメリカの図書館の現状を知ることが出来てよかったです。
- ・普通・・・特別目新しい内容ではなかったのが残念でした。通訳があったが、理解しにくいところがあった。
- ・悪かった・・・内容が薄い感じがした。

感想

●主な意見

- ・2ヶ月間大変だったが、終わってみるとあっという間だった。
- ・振り返ってみると充実した毎日で、最後まで受講できた事が自信に繋がった。
- ・講義が短期集中なので、未消化な科目もあった。もっとゆっくり学びたかった。
- ・講師によって、分かりやすい方とそうでない方の差があったように思う。
- ・図書館の蔵書が豊富で、2段式キャレルや閲覧席・PCなどの設備が充実しており、とても利用しやすかった。
- ・教室のエアコンが、寒いときと暑いときがあり困った。
- ・先生方・職員の皆様のおかげで、2ヶ月間快適な受講ができた。ありがとうございました。

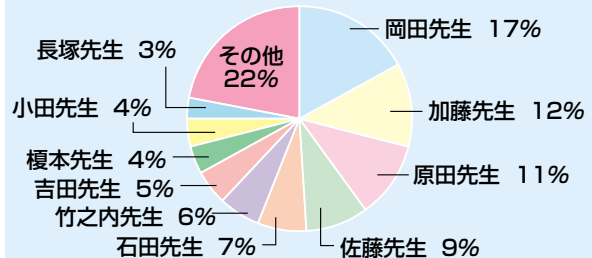
印象に残った科目（複数回答）



●主な理由

- ・レファレンスサービス演習・・・課題が多く大変だったが、実践的で面白かった。
- ・児童サービス論・・・先生が実演してくださった読み聞かせやストーリーテリングが良かった。
- ・資料組織演習・・・司書ならではの専門領域の勉強が出来た。
- ・専門資料論・・・あまり知らない専門分野の授業で面白かった。

印象に残った講師（複数回答）



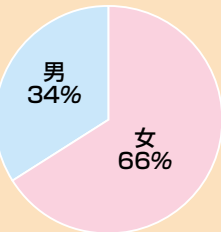
●主な理由

- ・岡田先生・・・親切で丁寧な授業は分かりやすく、お話は面白かった。
- ・加藤先生・・・講義内容が豊富で、難しい経営学を楽しく理解することができた。
- ・原田先生・・・厳しい面もあったが、優しく丁寧な指導が印象的だった。
- ・佐藤先生・・・現場の司書として、講義からは先生の仕事への熱意を感じた。
- ・石田先生・・・授業数が少ないのが残念に感じるほど興味深い授業だった。

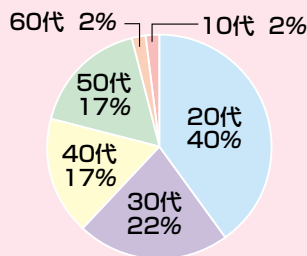
アンケート

◆平成20年度司書補講習アンケート集計結果◆ (回答数/受講数=49名/58名)

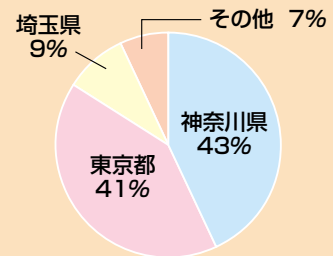
男女別データ



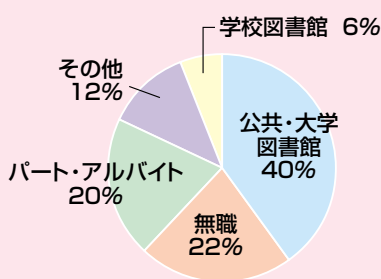
年齢別データ



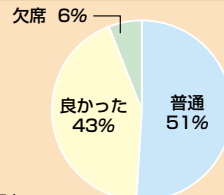
出身県別データ



職業別データ



特別講演会について



●主な理由

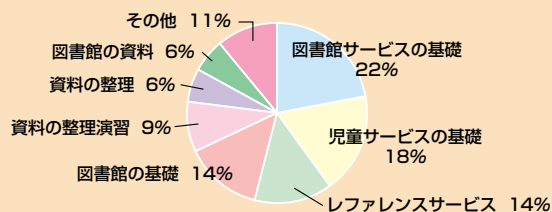
- ・良かった・・・アメリカの公共図書館の実情に触れることが出来て有意義だった。新しい図書館のシステムやサービスを聞いたので参考になった。
- ・普通・・・日本とかけ離れた現状に驚いたが、実感が湧かなかった。

感想

●主な意見

- ・利用した施設はどれもきれいで快適。OA研修室を自由に使用できたのも良かった。
- ・先生方の熱意のある講義が、受講していく上で励みになった。
- ・学ぶ楽しさと大切さを知り、大変充実した夏になった。
- ・図書館学の上級講座があれば、スキルアップのために受講したいと思う。
- ・大変お世話になりました。ありがとうございました。

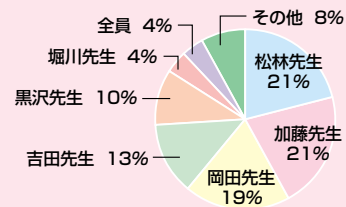
印象に残った科目（複数回答）



●主な理由

- ・図書館サービスの基礎・・・ノートに書く量が多く大変だったが、その分身に付いたし、授業も充実していた。
- ・児童サービスの基礎・・・児童サービスの面白さを実感できた。
- ・レファレンスサービス・・・図書館での演習はとても楽しかった。
- ・図書館の基礎・・・今までの図書館像が新しい意味で変わった。

印象に残った先生（複数回答）



●主な理由

- ・松林先生・・・個性的で熱心な先生だった。厳しい面もあったが授業は楽しくて有意義だった。
- ・加藤先生・・・最初の授業で困った私達をジョークを交えた講義でリラックスさせてくれた。すてきな先生だった。
- ・岡田先生・・・講義が非常に分かりやすく、話も面白いので退屈せずに受けることができた。
- ・吉田先生・・・熱心かつ親切に教えていただいた。

■司書・司書補講習の歩み■

鶴見大学の司書・司書補講習は、昭和29年(1954)の開講以来、今年で54年目を迎えました。この間、優秀な修了者を多数輩出し、多くの先生方によるご指導を受け、本学の講習は成長してまいりました。そして昭和38年には「一夏会」が発足し、この会報の由来ともなっております。また、平成9年には大会館での講習がスタートし、JR鶴見駅から徒歩1分という恵まれた環境で講習を行うことができるようになりました。

施設面では、約60台のパソコンからなるOA研修室、73万冊にも及ぶ質の高い蔵書群を所蔵しコンピュータを駆使した高度な情報提供機能を持っている図書館の使用など、時代のニーズにふさわしい講習を行っております。

本学司書・司書補講習は、これらの歴史と数多くの優秀な修了者を誇りにこれからも発展を続けていきます。

【司書・司書補講習受講生の皆様へ】

アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。このアンケート結果を参考に今後もより良い講習にしていきたいと思っております。また、この一夏会報を刊行するにあたり、原稿をご執筆いただきました先生方・受講生の方々に深く感謝申し上げます。

真夏の暑い中、2ヶ月間お疲れ様でした。